

中期留学・夏期留学プログラム参加者体験記

世界が変わった 人生の宝物もらう

〔ニュージーランド・ワイカト大学／米・オレゴン大学／米・サスケハナ大学／英・ブリストル大学／韓国・檀国大学〕

国際交流センターが実施しているさまざまな留学プログラムを利用して、貴重な経験を積んできた参加者の感想をお届けしよう。留学に興味を持ったら国際交流センターへGo！

ニュージーランド ワイカト大学＝中期プログラム

「家族」のように扱ってもらった

植田麻衣華(文3)

4月から7月まで中期留学プログラムで、ニュージーランドのワイカト大学に留学しました。「留学したい」という思いは中学、高校から持っていたのですが、大学3年次でようやく夢がかないました。

現地では、英語のスキルアップはもちろん、文化や歴史、そして生活様式の違いをたくさん学ぶことができました。留学中はずっとホームステイだったので、会話はすべて英語でし、突然、近所の人や友達が家に来るという、ニュージーランドでは当たり前のようにになっている習慣もよく体験しました。

食事もホストファミリーが用意してくれたので、ジャンクフードみたいな時もあれば、ラム肉のステーキという時もありました。ステイ先には、小さな子どもが4人いたので、少しでもできることをしようと家事を手伝っているうちに、料理を教え合いました。子どもたちとお皿を洗ったりするうちに、本当の家族のように扱ってもらえて、なじみやすさと親しみやすさを感じることができました。

学校は、英語を母語としない世界各国からの留学生がいる言語学校に通ったので、ノンネイティブの発音の聞き分けや、スピーキングの題材として、それぞれ自国の習慣や、文化を扱ったりも、教科書とデスクワークだけではなかなか味わえない文化的交流もできました。3カ月という短い期間でしたが、楽しかったことや大変な思いをしたこと、すべてが良い体験だったと思います。これから役立てたいと思っています。



▲料理を教え合ったホストブラザーと

米 オレゴン大学＝中期プログラム

恥ずかしさ捨て積極的にスピーチ

廣瀬 夏樹(経済3)

米国・オレゴン大学での5カ月間は、生涯で忘れられない宝物になりました。海外留学は今回が初めてで、最初は自分の英語能力にまったく自信がなく、言いたいことを英語にできずに、とても苦労しました。

しかし、授業中はすべて英語。日本の学校とは違い、常に自分から意見を言わなければクラスには参加できません。初めは、クラスメートの授業に対する意気込みに圧倒されるばかりでしたが、このままではいけないと、恥ずかしさは捨て、とにかく積極的に相手に自分の考えを理解してもらおうと努力しました。それにより、クラスメートや先生とも打ち解け、たくさんの友達を作ることができ、スピーキング能力の成長も感じるすることができました。



▲クラスの先生と

クラス内で行われたグループディスカッションでは、離婚、クローン、宗教といった各国で問題となっているトピックについて討論しあいました。クラスには、さまざまな国の人がいて、自分が考えもしない意見や納得のいかない意見が飛び交う中で、生活環境の違いによって考え方もまったく異なることを実感させられました。留学したからこそ感じられたことだと思います。

あつという間の5か月間は新しい発見の連続で、貴重な日々でした。英語学習以外でも、文化の違いやコミュニケーション能力など今まで気づかなかったことを学び、成長できました。このプログラムに参加して、本当によかったです。

米 オレゴン大学＝中期プログラム

「偏見のない」新しい自分を発見

井本 隆太(文2)

4月から5か月間、オレゴン大学に語学研修に行ってきました。この経験は、これまで一番の経験となり、今までの人生の中で、最も私を成長させてくれた出来事となりました。

オレゴン大学のAEI(American English Institute)で英語の勉強をしたのですが、そこには世界中の留学生がいて、韓国、中国、サウジアラビア、トルコなどたくさんの国の人たちと出会いました。

プログラムに参加するまで、海外での経験がなかった私は、正直、いくつかの「偏見」を持っていました。例えば、中国や韓国の人は日本を憎んでいるとか、サウジアラビア人はみな金持ちだとか……。メディアを通しての情報から強く影響を受けていたのだと思います。メディアが間違っているとは言いませんが、さまざまな国の人と直接話し、接することによって、いろいろな事例を「自分の目」で判断できるので、そこには、今までと違う発見があるかもしれません。



▲子どもたちと一緒に

今の私には、以前のような偏見はありません。実際、留学先で出会った一番の友達韓国人です。このことだけでなく、現地での出来事すべてが、広く、多様な視野を持たせてくれる糧となりました。

「新しい自分を見つける、いい意味で変われる、自分を試すチャンス」となったこのプログラムを通して英語のスキルだけでなく、人として成長できたことが一番の成果だと思います。

日本に帰って生活してみて、改めてこの経験の素晴らしさを実感しています。

米 サスケハナ大学＝夏期プログラム

「アーミッシュ」の簡素さが印象的

水上 浩太(経営2)

このプログラムに参加した目的は、英語力向上だけでなく、「大学生」という自分の時間が自由に使える時期に海外へ行くことによって、今まで知らなかった文化的な価値観を知り、世界の見方が変わるのではないかと思ったからです。

同時に、大学生活の残りの2年間をどのように過ごすのか、留学がステップアップのための第一歩になればと思ったのです。

ホームステイ先での生活はすべてが新鮮でした。日曜日の教会での礼拝は、キッズルームで子どもたちの世話をするチャンスだったのですが、逆に子どもたちから英語を教えてもらいました。野球のマイナーリーグや映画を見に行ったり、ホームパーティーに招待されたりと、とても充実した毎日でした。



▲人の温かさにふれる

授業では、アクティブな人が多く、グループでインタビューに行ったり、幼稚園や老人ホームを訪れ、日本の文化を紹介したりしました。

中でも印象的だったのは「アーミッシュ」の地域を訪ねた時のことです。近代的な機能を一切使わずに、自

給自足で自然と調和しながら生活を送っている人々です。今、世界規模で環境破壊が問題になっていますが、彼らのようにシンプルな暮らしをすることは、私たちも見習うべきではないかと感じました。

英語力はまだまだで、戸惑うことばかりの19日間でしたが、現地の人々の温かさに触れ、毎日楽しく過ごすことができ、忘れられない貴重な経験となりました。

英 ブリストル大学＝夏期プログラム

忘れられないホストマザーの言葉

行實 良(商3)

ブリストル大学での授業は、専大生の特別クラス2クラスと、国際クラス2クラスに分けられました。すべて国際クラスにしてほしかったというのが本音ですが、英語・異文化の交流は授業だけではありません。店の店員やほかの国からの留学生との会話で、勉強は十分にでき、日本人だけのクラスでも日本語を使わないように意識すれば、かなり英語力がアップできると感じました。



▲パッキンガム宮殿で(左端)

授業はとても楽しく、クラスのみならず、日本にいる時より積極的に発言していたようです。イギリス英語は、小中高と勉強してきた英語とは違う部分もあったので戸惑いもありましたが、慣れてしまえば問題はありませんでした。もっと準備しておけば良かったと後悔はしましたが……。

最も印象に残ったのは人との出会いです。言葉は完璧でなくても言いたいことは通じ、この経験で人間的に成長したと実感しました。さまざまな経験の中でも、一番の思い出はホストファミリーと過ごした1カ月です。初日にホストマザーに言われた感動的な言葉は忘れられません。

「あなたにイングランドの食文化、生活、宗教、いろいろなことを見せるから、最善と思ったことを選択しなさい。視野が狭くなつてはダメよ。心を開いてさまざまなことに挑戦しなさい」

社会人ではできないことを経験し、少し自信がつかしました。この経験を生かし、日本人の良いところでもある謙虚な気持ちを忘れずにチャレンジしていきたいです。

韓国 檀国大学＝夏期プログラム

人との絆を実感「トウミ」に感謝

竹内 未生(経済3)

韓国の檀国大学での留学プログラムに参加し、さまざまな経験をする事ができました。お世話になった先生方も親切で、多くの面で助けていただきました。

2クラスに分かれた教室は、少人数で和気あいあいとした雰囲気。楽しく集中して学ぶことができました。韓国語での授業は、先生が簡単な言葉で話してくださったので、さほど苦勞はしませんでした。教科書に沿った中で、たまに韓国についての「トリビア」を教えてください、韓国文化の知識も増えました。



▲韓服を着て…中央が竹内さん

フィールドトリップで印象に残っているのは、映画村と伝統舞踊です。映画村では実際に映画を撮影し、音声作りを体験。伝統舞踊では、曲に合わせてみんなで踊ったことがいい思い出です。ホームステイ先の家族がクリスチャンだったので、キリスト教について教えてもらい、私からは日本の文化を紹介し、異文化交流ができました。

一部屋2～3人の寮生活は、助け合いつつ、先生やトウミ(学生が留学生のさまざまな世話をする韓国独特の制度)が助けてくれたので、困ったことはありません。特にトウミからは、生活面だけでなく知らない単語の言い回しを教えられ、それが力になりました。

慣れない土地での1カ月間の共同生活は、大変なこともありましたが、精神的にも大きく成長できたと思っています。情に厚い韓国の方々と接して、「人との絆」を実感することができました。この貴重な経験を無駄にすることなくこれからの人生に生かせるよう精進していきたいと思ひます。

